

## 最新情報

### 1) Ludl シャッター専用制御ユニット(995068)

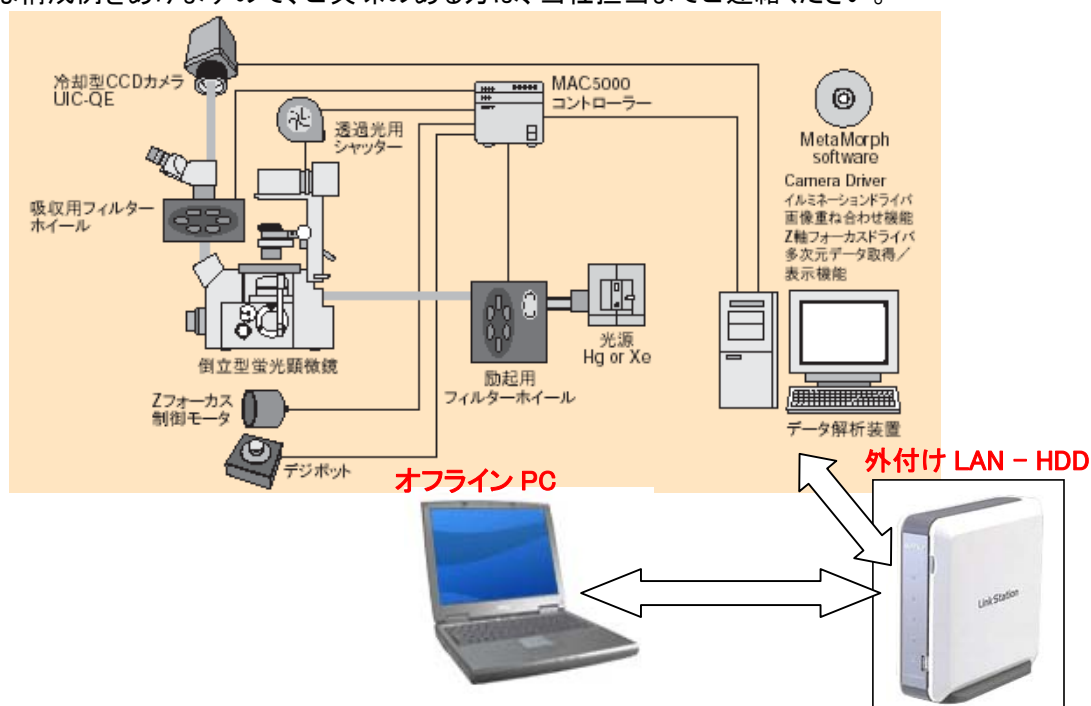
Ludl 社より DC タイプシャッターを最大4ヶ制御可能なシャッターシステムが発売されました。定価 ¥240,000- です。タイムラプス等でシャッターのみを制御されたい場合にお勧めいたします。なお、手でシャッターを開閉するためのスイッチがコントローラ全面に取り付けられていますので、Uniblitz の VMM-D3J と比較し、操作性に大変優れています。ただし、MAC5000 と異なり、モジュールを追加して機能拡張することはできませんので、ご注意ください。(※MetaMorph Version 6.2 での動作確認済です)

参考までに シャッターは、¥220,000- です。



### 2) ネットワークハードディスクの利用例

MetaMorph の MultiDimensional Acquisition モジュールを用いてデータ取得中のデータをネットワークハードディスクに保存するようあらかじめ設定しておき、この保存済データを別のオフライン PC から MultiDimensional Viewer 機能でデータ再構築を行い、観察や解析ができます。これにより、タイムラプスなどが完全に終了するまで待たなければデータ観察や解析ができないような他社のソフトウェアと異なり、時間を効率よく使うことができます。簡単な構成例をあげますので、ご興味のある方は、当社担当までご連絡ください。



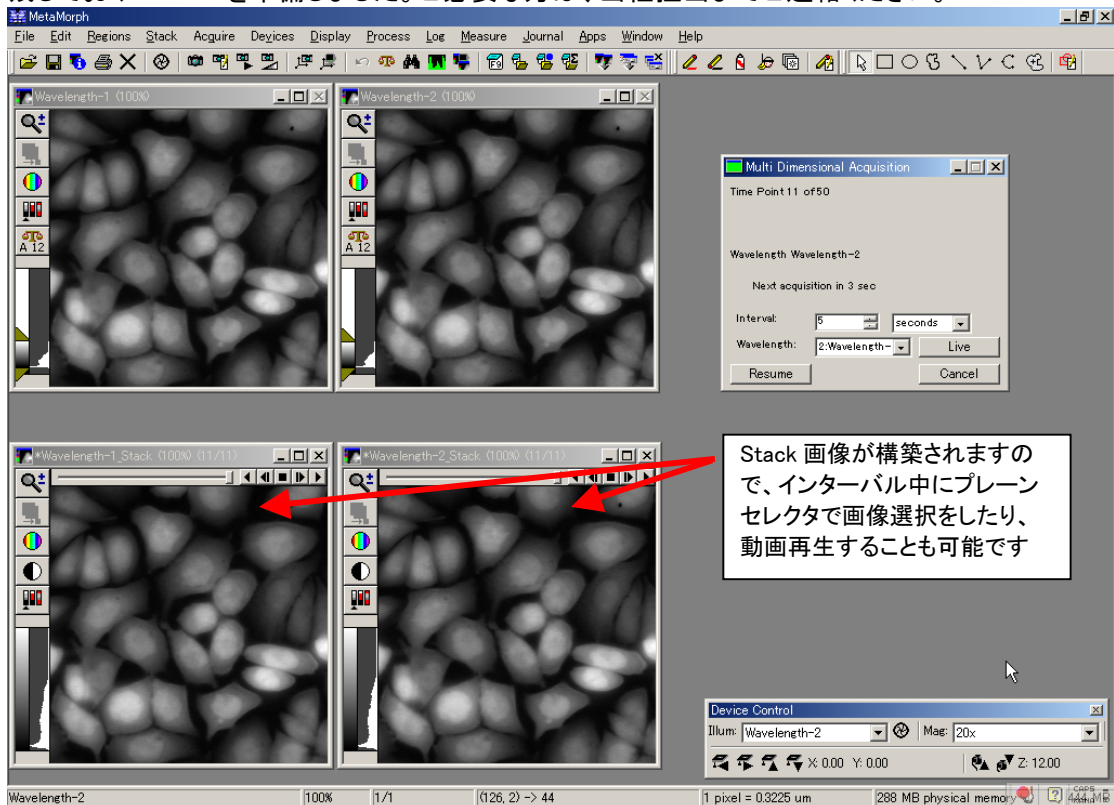
### 3) ユーティリティ ソフトウェアのご紹介

AVI形式ファイルをMetaMorphで読み出すことはできませんが、フリーソフトウェアとして出回っています**AVI2JPGソフトウェア**などを用いて、AVIファイルをフレーム毎にJPGまたはBMP形式ファイルに変換し、この変換されたファイルをMetaMorphの[File]メニュー [Open Special]機能から [Build Stack]の [Numbered Names]を用いてファイル指定を行うことで、簡単にStack画像に再構築可能です。

より詳しい情報が必要な方は、当社担当までお問い合わせください。

### 4) MDA でデータ取得中に取得済画像を Stack ファイルとして逐次表示する Journal

MDA を始動させると通常は最後に取った画像が MetaMorph のデスクトップ上に表示されますが、お客様の中には既に取得し終えた画像をチェックしたい方も多くいらっしゃるようです。そこで、NMDC では V6.2 以降 MDA で Journal を大変組み込みやすくなったこともあり取得し終えた画像を Stack 画像に構築(逐次画像を追加していきます)し、デスクトップ上に残しておく Journal を準備しました。ご必要の方は、当社担当までご連絡ください。



### 5) 浜松ホトニクス製 CCD カメラドライバに関する追加情報

最新の EM-CCD C9100 シリーズなどをサポートしている浜松ホトニクス社製 DCAM カメラドライバ(#40095)は、ストリーム画像取得中のプレビュー表示や高速波長切替装置(DG4)との連携、 piezo素子を用いた高速 Z 軸スキャンなどデバイスストリーミングが可能です。

### 6) PC の仕様変更のお知らせ

8月出荷分より「MetaPrecision360-2.8G1G/WM の仕様を変更いたします。変更点は次のとおりです。

<変更前> : 17inTFT 液晶モニター、HDD 40GB、64MB グラフィックボード

<変更後> : **19inTFT** 液晶モニター、HDD **80GB**、**128MB** グラフィックボード

<主仕様> : CPU Pentium4 2.8GHz、1GB メモリ、DVD+RW、Complete Care 3 年など

### 7) 暗室での USB ライト活用

最近 USB ポートを使用した簡易照明が販売されています。これにスイッチ付きの USB 延長コネクタを用いると電源の ON/OFF も行えるため、暗室などでの操作性を飛躍的に向上できます。値段もライトを含めても2000円程度ですから、試してみる価値はあると思います。

以上